

公立福生病院経営強化プラン 点検・評価書

(令和5年度)

令和7年2月

福生病院企業団

1 はじめに

公立福生病院経営強化プラン(以下「経営強化プラン」という。)は、総務省から通知された「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえ、令和5年度から令和9年度まで(5年間)の公立福生病院の経営強化の取組に係る計画として、令和5年2月に策定しました。

経営強化プランについては、実施状況を毎年度点検及び評価行うこととしています。

今回、令和5年度の実績を基に、経営強化プランの点検と自己評価を行ったことから、その結果について報告します。

2 点検・評価

(1) 数値目標の取組状況

<評価の基準>

- A 目標を上回ったもの (達成率 100%以上)
 B 概ね目標どおりのもの (達成率 90%以上 100%未満)
 C 目標を下回ったもの (達成率 90%未満)

項目	令和4 年 度	令和5年度			自己 評価	取組状況等
	実績	目標	実績	達成率		
常勤医師数	57 人	62 人	52 人	83.9%	C	・関係医局への積極的な働き掛けや、紹介業者等に対して必要な情報を提供したが、採用に急を要する診療科(内科)医師の確保ができなかった。 ・令和6年3月に耳鼻咽喉科常勤医師の採用が決定し、令和6年4月から勤務を開始した。 ・令和6年度からは医師紹介会社と採用コンサルティング業務委託契約を締結し、医師獲得に向けた取組強化を推進している。
救急車搬送件数	2,980 人	3,150 人	2,442 人	77.5%	C	・大学医局からの常勤医師派遣により救急科を新設したが、内科系(内科・循環器内科)医師不足により、救急件数が伸びず、目標達成に至らなかった。 ・不足する内科系医師の当直体制を補うために医師紹介業者に当直医師の紹介を依頼し当直体制を強化した。
紹介率	37.5%	50.0%	41.4%	82.8%	C	・常勤医師不足により適切な治療を提供するためには紹介患者の受け入れを抑えざるを得ず、目標達成に至らなかった。 ・医療連携だよりを通じた広報、連携医療機関へ訪問をした効果から令和 4 年度より増加したが、目標達成には至らなかった。引き続き近隣医療機関との連携強化を図り紹介率の向上に努めていく。

項目	令和4 年 度	令和5年度			自己 評価	取組状況等
	実績	目標	実績	達成率		
逆紹介率	31.4%	30.0%	46.5%	155.0%	A	・急性期病院の役割である入院診療を推進すべく、症状が安定した患者で診療所等でも治療が可能な患者を積極的に逆紹介していくことが根付いている。 ・今回、目標を大きく上回った主な要因は、一部の診療科の常勤医師が退職し、現状の診療規模及び機能を保つことができなかったため、症状の安定した多くの患者を地域の医療機関に逆紹介したことによるものである。逆紹介は、急性期病院の役割である入院診療の充実及び安全・安心な医療を提供するために重要である。今後も患者の理解を得ながら推奨していく。
患者満足度 (入院)	98.2%	98.0%	98.7%	100.7%	A	・患者満足度調査を実施し、患者さんの意見を取り入れるなど改善に努めていった効果から目標を上回った。 - 今後も継続して改善に努めていく。
患者満足度 (外来)	83.9%	95.1%	94.9%	99.8%	B	・概ね目標どおりの結果となった。今後も患者満足度調査を実施し、患者さんの意見を取り入れるなど改善に努めていく。
経常収支 比率 (*1)	108.7%	102.4%	83.5%	81.5%	C	・新型コロナによる患者の受診控えや常勤医師不足により患者数が伸びず、医業収益が大幅に減少したため、目標達成に至らなかった。 ・医業収入を増やす取り組みとして、年末年始の手術体制の見直し、クリニック等への訪問回数の増や新規入職医師の情報提供など近隣医療機関等との医療連携の強化に取り組む。 ・医業支出を削減する取り組みとして、診療報酬改定でベースアップ評価料が新設されているが、給与の手当の見直しや超過勤務時間の削減による人件費の抑制に努める。
医業収支 比率	84.0%	86.2%	72.6%	84.2%	C	・新型コロナによる患者の受診控えや常勤医師不足により患者数が伸びず、医業収益が大幅に減少したため、目標達成に至らなかった。 ・取組状況等は経常収支比率と同様。
修正医業 収支比率	80.5%	83.1%	69.3%	83.4%	C	・新型コロナによる患者の受診控えや常勤医師不足により患者数が伸びず、医業収益が大幅に減少したため、目標達成に至らなかった。 ・取組状況等は経常収支比率と同様。

項目	令和4 年 度	令和5年度			自己 評価	取組状況等
	実績	目標	実績	達成率		
病床利用率 (急性期病棟)	56.4%	65.9%	47.7%	72.4%	C	・新型コロナによる患者の受診控えや常勤医師不足により入院件数が伸びず、目標達成に至らなかった。 ・診療科別の目標入院患者数を定め、目標数及び実績数を電子カルテのトップページに毎日掲示し、職員全体が病院経営に参画する意識の向上に努めている。
病床利用率 (地域包括ケア病棟)	60.1%	77.3%	54.2%	70.1%	C	・新型コロナによる患者の受診控えや常勤医師不足により入院件数が伸びず、目標達成に至らなかった。 ・内科系医師の不足を補うため、地域包括ケア病棟の病棟医の採用に向けて取り組んでいる。
職員給与費 対医業収益 比率(*2)	61.7%	60.1%	72.2%	83.2%	C	・医師、看護師等の減少により職員給与費は前年度より減少したが、常勤医師不足による医業収益の減少幅が大きく、目標達成に至らなかった。 ・診療報酬改定でベースアップ評価料が新設されているが、職員給与費を抑制するため、手当額の見直しや、業務内容を精査し超過勤務時間の削減に努める。
医療材料費 対医業収益 比率(*2)	23.6%	23.0%	24.4%	94.3%	B	・医療材料の単価は高騰したが、患者数減少による医療材料の使用量が減少し、総購入金額が前年度よりも減少した。 ・医療材料費は医業収益と連動する変動費に位置づけられ、医療材料費の全てにおいて物価高騰の影響を受けたが、概ね目標どおりの結果となった。 ・医療材料費を抑制するため、ベンチマークシステムを活用して引き続き業者との価格交渉を継続していく。

*1: 自治体で使用する計算式の分子と分母が逆となるため、100%以上が望ましい数値となる。

*2: 実績値は目標値よりも低い方が望ましい数値となる。

(2) 数値目標以外の取組状況

<評価の基準>

- A 目標を上回ったもの
- B 概ね目標どおりのもの
- C 目標を下回ったもの

項目	取組状況等(令和5年度)	自己評価
施設・設備長寿命化計画	計画的な維持修繕と更新を行い、事後保全から予防保全への転換を図ることで、トータルコストを削減すべく、「公立福生病院施設・設備長寿命化計画」を策定した。 計画期間は令和6年度から令和30年度までの25年間とした。	A
医療機器の更新計画	将来の医療需要等を踏まえ整備計画の作成及び更新を行うことを目的に「医療機器等整備計画検討委員会」を設置した。 全9回の委員会を開催し、優先度及び必要度の高い医療機器等を精査し、令和6年度予算に計上した。	A
デジタル化への対応	医療DX計画の策定に向けた調査検討を開始し、令和6年度に画像遠隔読影システムを導入することになった。 また、サイバー攻撃に備え、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」を参照に「公立福生病院サイバーセキュリティBCP(仮)」の策定に着手した。	B